



※前回公演時の写真です。



# 第一回 「ネオ狂言 ポルチーニ」

## 岡山公演

# 「ポルチーニ」



2023  
7月23日(日)

一部:開演13時(開場12時)

二部:開演17時(開場16時)

会場:能楽堂ホールtenjin9 岡山市北区天神町9-24

チケット 5,000円(税込)全席指定

楽天チケットにて販売



お問合せ:ネオ狂言ポルチーニ実行委員会 TEL 080-4419-1414  
主催:アトリエ オガ. 運営:NPO法人 心の扉 協力:(株)フジオ・プロダクション



# NEO狂言「ポルチャーニ」

イヤミ博士・小笠原由禰 アッコちゃん・TAKAKO パカボンのパパ・青山郁彦  
 ニャロメ・澤崎 レレレのおじさん・泉慎也 チビ太・杉本茜 ウナギイヌ・廻樓羅  
 ハジメちゃん・小笠原弘晃 おまわりさん・山本豪一

「ポルチャーニ」とはイタリア語でキノコのこと。

本作はとつてもとつても生えてくる得体の知れないキノコに対して、山伏が祈祷をもつて挑むが、折れば折るほど増殖するという狂言演目「くさびら」をベースにしています。

「くさびら」は、当時の権力者であった山伏をわらう風刺劇ですが、小笠原由禰は、この演目に、「自然への畏敬」というテーマを見出しました。小笠原によって書き下ろされた「ポルチャーニ」は、科学万能を信じて疑わないイヤミ演じる天才博士が、パカボンのパパに依頼されて、ニャロメなどの赤塚キャラクターたちの形をしたキノコたちと対決するが……というお話。

狂言面とコメディア・デッラルテの仮面で表現されたおなじみの赤塚キャラたちが、笑を誘いつつ、「自然対文明」という、今だからこそ考えたいテーマを浮かび上がらせてます。

## 狂言 蝸牛

かぎゆう

小笠原由禰  
 小笠原弘晃 他

修行を終えた山伏が竹藪で寝ていると、主人の命令で長寿の薬となるかたつむりを求めに来た太郎冠者に出くわします。かたつむりを知らない冠者は兜布を戴いた山伏が寝ているのを見てかたつむりと思いい込み声をかけ、太郎冠者を愚か者と見てとつた山伏はからかってやるうと思いい、同行してくれと言う太郎冠者に囃子物に乗ってならと行くうちに……。

この演目は観客まで囃子に乗りウキウキとした気分にする狂言の代表曲と言えます。  
 (一部)

## 狂言 棒縛

ぼうしばり

小笠原由禰  
 小笠原弘晃 他

主人は二人の召使いが盗み酒をすることに気づき、太郎冠者が棒術を使うのを幸いに、上手くだまして棒縛りにしてしまい、二郎冠者をも油断させて後ろ手に縛り、これで安心と出ていきます。残された二人は、縛られても酒が飲みたくなり……。

日本古来の武術である棒術を配し、主従の対立を明るく描いています。不自由な姿で踊る舞うところが一つの傾向で、歌舞伎舞踏にも脚色されて、人気曲になっています。  
 (二部)



小笠原由禰  
 Tadashi Ogasawara

能楽師狂言方和泉流 公益社団法人 能楽協会会員  
 日本能楽会会員 重要無形文化財総合指定保持者

1965年生まれ

野村萬(人間国宝)、故八世野村万蔵、九世野村万蔵に師事。2006年より毎年千葉県の新話民話風習を創作狂言に創作・演出。NHK「義経」「カーネーション」他で、芸能・所作指導。2012年より3年間ヴェネツィア大学で狂言とイタリア伝統仮面劇のシンポジウム・WS・公演を行う他、フランス、ドイツ、オーストリア、ブラジル、アフリカ等、海外公演多数。本年5月には、日越外交関係樹立50周年記念事業としてパトナム公演に出演。現在、萬狂言関西支部代表



小笠原弘晃  
 Hiroaki Ogasawara

能楽師狂言方和泉流 公益社団法人 能楽協会会員

2001年生まれ

初世野村萬、九世野村万蔵及び父に師事  
 3歳で初舞台「鞍馬」(大名・野村萬)を踏む  
 2017年「千歳」「奈須与市語」を披く  
 2014年よりバリ留学、狂言普及活動他、フランス地方音楽院 CRR Boulogne-Billancourtにて音楽を学ぶ。パリ第3ソルボンヌ大学舞台芸術学科在籍  
 フランス各地での公演他、ハンガリー、ブラジル、アフリカ、ベトナム等、海外公演多数  
 阪本順治監督作品・吉永小百合主演映画「北のカナリアたち」(2012年)出演

## ネオ狂言×マンガ×仮面劇

「笑い」を極限まで追求し、一種哲学的な深遠さを持った作品を創り上げるにいたつたマンガ家・赤塚不二夫。

「狂言」の伝統を受け継ぎつつ、イタリアの古典仮面喜劇＜コンメディア・デッラルテ＞とのコラボレーションなど、常に新しい地平を探索し続けてきた和泉流狂言師・小笠原由禰。

本プロジェクトは、世界の、あるいは人間の本質を、笑いという形式の中に見出そうとしてきたふたりの芸術家の出会いによって生まれました。赤塚作品の不滅のキャラクターたちが、イタリア仮面劇の要素も吸収しつつ、狂言の古典的な演目をベースにした書き下ろしの中で、新たな命が吹き込まれます。狂言×赤塚不二夫×イタリア仮面劇の化学反応が創り出す新しい世界を目撃してください。

## 交通案内

能楽堂ホールtenjin9 〒700-8580 岡山県岡山市北区天神町9-24

- ・JR岡山駅から徒歩で約15分
- ・路面電車/「東山」行き約5分、「城下(しろした)」下車、徒歩2分
- ・宇野バス/「片上方面 瀬戸駅、四御神」行き、「表町入口」下車、徒歩2分
- ・岡電バス/「藤原団地」行き、「RSK本社前・美術館前」下車、徒歩1分
- ・循環バスめぐりん/「表町入口」下車、徒歩2分

※会場には来場者用駐車場・駐輪場はございませんので、周辺の駐車場・駐輪場施設をご利用くださいますようお願いいたします。